

やんばる3村

国頭

国頭村はやんばる最北端の村で面積も人口も最大の約 4,000 人が住む村です。沖縄最高峰の与那覇岳（503m）があり、また、辺戸岬近くのそびえ立つ崖と浸食された石灰岩が露出しているのが見られます；これは沖縄で最も印象的な自然景観の 1 つです。84 パーセントを超える面積が木々に覆われた国頭村は、やんばるの中で最も森林に恵まれた村です。

国頭村の住民は、他の村の住民と同様に、森林資源を活用し、木炭、木材、琉球藍の生産を行ってきました。伝統的な祭りには、集落ごとに少しずつ形式が異なるシヌグ祭りがあります。安田の祭りは特に有名です。安田の男性たちは山のつるで頭飾りを作り、太鼓を叩きながら山を下ります；女性たちは村で男性たちを出迎えます。豊作を祝う演目が披露され、夜遅くまで踊りが続きます。

大宜味

大宜味村は西海岸のビーチから中央部の山地まで広がっており、人口は約 3,000 人です。大宜味の森にあるター滝には、やんばるに降る大雨が流れ込みます。この森の他の注目すべき名所は、数百年前にイノシシから農作物を守るために建設された岩壁です。大宜味は、バナナの一種である糸芭蕉の茎から作られた布、芭蕉布を織る古い伝統で有名です。複雑で

時間のかかる工程を経て作られる芭蕉布は、かつて村人たちの衣服としてだけでなく、琉球王国の王族や士族への贈り物にもされてきました。また、大宜味の人々は、地元の石灰岩の山々に自生する小さいながらも香りのよい柑橘類であるシークワーサーを栽培しています。現在、この村は日本のシークワーサー生産量の 60%を栽培しています。

東

やんばるの南東海岸に位置する東村は、人口約 1,000 人で最も人口の少ない村です。この村には森林に覆われた山が多くあり、また、沖縄本島最大のマングローブ林もあります。干潮時には陸地が水面に現れ満潮時には陸地が水面下に沈む海岸の潮間帯に生育するマングローブは、野生の動植物の独特的な生態系を形成しています。東村の人々は伝統的に、木材、薪、木炭のために森林を伐採し、それらを島の森林の少ない地域に輸送するというやんばるの慣習に従っていました。この慣習は第二次世界大戦後も続き、そうした資源は戦争で破壊されたインフラの再建に役立ちました。東村は日本最大のパイナップル生産地ですが、マンゴーや野菜などの他の作物や、パイナップルを食べて育った豚からとれるアグー豚でも知られています。